

NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

第16回通常総会議事録

- 第一号議案 議長の選任
- 第二号議案 放送批評懇談会 2019 年度事業報告
- 第三号議案 放送批評懇談会 2019 年度決算報告
- 第四号議案 放送批評懇談会第 16 期 17 期役員
- 第五号議案 放送批評懇談会 2020 年度事業計画
- 第六号議案 放送批評懇談会 2020 年度収支予算

放送批評懇談会

2020年6月21日



特定非営利活動法人放送批評懇談会

<第16回通常総会>

■開催日 2020年6月21日

■会場 オンライン開催

■会勢 <正会員>
194名 (入会5名、退会11名)
<維持会員>
138社 (退会2社)

■出席者 39名
石橋さや夏 市村 元 出田幸彦 入江たのし
岩根彰子 永 麻理 大野 茂 奥 律哉
音 好宏 小原道雄 勝野正博 茅原良平
川喜田尚 国枝智樹 隈部紀生 汲田亜紀子
五井千鶴子 小林 毅 桜井聖子 鈴木健司
鈴木嘉一 高堀冬彦 田川義博 滝野俊一
鳥谷 規 長井展光 中島好登 橋本 隆
服部千恵子 稗田政憲 桧山珠美 福島俊彦
藤田真文 古川柳子 堀木卓也 水島宏明
山田健太 山田真嗣 渡邊 悟

■委任状提出者 75名

■出席予定者と委任状提出者で計114名



第一号議案 議長の選任

定款第27条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員の中から、「小原道雄氏」を合議により選出。

第二号議案

放送批評懇談会

2019 年度事業報告



2019年度総務事業報告

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支援しました。
2. 第11回志賀信夫賞
正会員による候補者推薦を受け、選考委員会で選考を行い、北海道大学客員教授・電通総研フェロー・北海道テレビ相談役の樋泉実さんを選出しました。
選考委員会：音 好宏（委員長） 橋本 隆 藤田真文 川喜田尚丹羽美之
3. 第57回ギャラクシー賞
新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言などの影響により、第57回ギャラクシー賞の従来型の贈賞式開催を見送りました。
4. NHK BSプレミアム「ザ・ベストテレビ2019」
2019年10月20日(日)、21日(月) 両日。第56回ギャラクシー賞テレビ部門大賞作品のETV特集「静かで、にぎやかな世界～手話で生きる子どもたち～」が放送され、優秀賞・選奨の作品（ドキュメンタリー関係）が30秒程度のダイジェストで紹介されました。
5. 第19回「日韓中テレビ制作者フォーラム中国大会」
2019年10月30日～11月2日、中国貴州省興義市で開催された第19回「日韓中テレビ制作者フォーラム」に協力し、大会の成功に寄与しました。
6. 「就業規則」を一部改訂しました。「育児・介護休業規程」「通勤手当支給規程」を制定しました。
7. 事務局のパソコンを Windows10 にバージョンアップしました。
電子データの管理にクラウドシステムの Dropbox を導入し、事務局業務の効率化を進めました。



8. 新型コロナウイルス感染拡大に対応し、一部リモートワークを導入、通勤時間をフレキシブルにするなどして職員の感染防止に努めました。また、リモート会議システム Zoom を導入し、理事会、委員会、取材、打ち合わせなどに活用しました。



2019年度出版編集事業報告

1. 昨年度は下記のメンバーで運営しました。

委員長	水島宏明
副委員長	鈴木健司 氏家夏彦
委員	太田省一 岡田芳枝 新川周平 宮崎美紀子 渡邊 悟
編集スタッフ	中島好登 福島美子 山本夏生 齋藤茜里

2. 毎月6日に「GALAC」プリント版（3000～4000部）と電子版で発行しました。

1) 特集テーマは以下のとおりです。

- 2019年10月号 テレビと文学
- 2019年11月号 今、フォーマットが熱い
- 2019年12月号 公共メディアとは何か
- 2020年1月号 第57回上期ギャラクシー賞
- 2020年2月号 ケーブルテレビ新時代
- 2020年3月号 劇変！視聴率 変革！広告ビジネス
- 2020年4月号 時代劇は死なない
- 2020年5月号 キーワードから読み解く放送の未来
- 2020年6月号 テレビは“ケーサツ”をどう描く？
- 2020年7月号 新型コロナと対峙せよ／志村けんの遺したもの
- 2020年8月号 決定！第57回ギャラクシー賞
- 2020年9月号 続報！第57回ギャラクシー賞「受賞のことば」
／モノ言う番組～

2) ドラマ、ドキュメンタリー、アニメ、アイドル、バラエティなど、コンテンツを多角的に見つめました。特に公共メディアのあり方、視聴率改革、同時送信の開始、5G、新型コロナの放送への影響など、その都度課題になったテーマをタイムリーに取り入れる誌面づくりを追求しました。

3) 選奨事業委員会の見る会・聴く会報告、企画事業委員会のセミナー



一抄録など、各委員会と連携したページ作りに努めました(2019年10月号、2020年2月号)。

3. 放懇オンラインショップ、富士山マガジンサービスでの直販に努めました。
4. インターネット対応を進めました。
 - 1) ニュースサイト「goo」「@nifty」「東洋経済 ONLINE」に記事の提供を行いました。
 - 2) Gメンバーサイトに電子版を提供しました。



2019年度選奨表彰事業報告

1. 本年度は下記の委員の構成で運営しました。

選奨事業委員長 稗田政憲

＜テレビ部門委員会＞

委員長 出田幸彦

副委員長 岩根彰子

委員 岩城浩幸 梅田恵子 兼高聖雄 小泉世津子

戸部田誠 西森路代 旗本浩二 福島俊彦

藤岡美玲 細井尚子

＜ラジオ部門委員会＞

委員長 五井千鶴子

副委員長 川喜田尚

委員 今村和夫 掛原雅行 茅原良平 黄 莉香 小林浩子

仲宇佐ゆり 松浦正和 迎 康子 本村 隆 山田真嗣

＜CM部門委員会＞

委員長 服部千恵子

副委員長 汲田亜紀子

委員 家田利一 泉 綾子 風間恵美子 国枝智樹

島崎英雄 鈴木武人 鈴木ゆかり 野上信子

星野 裕 本庄雅之 山口菜穂美

＜報道活動部門委員会＞

委員長 丹羽美之

副委員長 市村 元

委員 小川邦雄 河野尚行 櫻井 要 関 美礼 中村正敏

原 真 桧山珠美 古川柳子 松山秀明

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里

2. 第57回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

＜テレビ部門委員会＞

- ・2019年4月から2020年3月まで、毎月月評会を開き月間賞4本を選びました。



選考結果を「GALAC」誌上に月間賞選評および番組短評一覧として発表しました。毎月20日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。

- ・2019年9月11日～30日、10月9日～21日に、第57回上期自薦作品156本を視聴。10月30日、月間賞(24本)と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。
- ・2020年3月10日～27日、4月14日～27日に、第57回下期自薦作品165本を視聴。5月23日、月間賞(24本)と自薦作品の中から下期入賞作品7本を選出しました。同時に特別賞、個人賞、フロンティア賞も選びました。フロンティア賞は、応募作品3本、推薦作品3本の計6本から選考しました。(オンライン方式で開催)

<ラジオ部門委員会>

- ・2019年4月から2020年3月まで、毎月定例会を開催してラジオについての合評を行いました。
- ・2019年10月、第57回上期45本の自薦作品を聴取し、10月21、23日に各カテゴリーの上期候補作品を選出しました。
- ・2020年4月、下期43本の自薦作品を聴取し、4月27日、5月1日に各カテゴリーの下期候補作品を選出しました。
- ・5月19日、上期下期をあわせた候補作品の中から入賞作品8本を選出し、DJパーソナリティ賞も選出しました。(オンライン方式で開催)
- ・2019年7月7日にTBSセミナー室(TBS放送センター内)で「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会」を開催しました。

<CM部門委員会>

- ・2019年4月から2020年3月まで、毎月定例会を開催してCMについての合評を行いました。
- ・2019年10月24日、上期110本(テレビ)、56本(ラジオ)の自薦作品を視聴し、13本の上期候補作品を選出しました。
- ・2020年5月20日、下期94本(テレビ)、67本(ラジオ)



の自薦作品を視聴し、13本の下期候補作品を選出しました。続いて最終選考会を行い、上期下期合わせた候補作品の中から13本の入賞作品を選出しました。(オンライン方式で開催)

- ・2019年11月16日に上智大学四谷キャンパス6号館6-501号室にて「第56回ギャラクシー賞CM入賞作品を見る・聴く会」を開催しました。

<報道活動部門委員会>

- ・2019年11月1日、上期7本の自薦作を視聴・聴取し、3本の上期候補作品を選出しました。
- ・2020年5月9日、下期26本の自薦作を視聴・聴取し、7本の下期候補作品を選出しました。上期下期合わせた候補作品の中から6本の入賞作品を選出しました。(オンライン方式で開催)
- ・2020年2月に委員会を開催して、報道活動についての情報交換を行いました。
- ・「GALAC」連載ページを委員が分担し、全国各地における報道活動の紹介、各局報道活動への期待、特定のテーマに関する報道活動についての論考などを執筆しました。



2019年度企画開催事業報告

1. 2019年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成しました。

委員長 桜井聖子

副委員長 奥 律哉

委員 佐藤友紀 田川義博 長井展光 松崎泰弘

2. 2019年度は、次世代モバイル通信規格「5G」本格化、放送と通信の融合・連携の真価、ラジオ経営問題などをテーマとし中規模のセミナーを10月に開催しました。タイムリーなテーマ設定と注目度の高い講師の招聘を実現できたことで、80名定員のところ、110名の参加と好評を得ました。また、初めて電子システム「Sli.do」を使用し、参加者からリアルタイムで質問を募ったことで、より多面的に議論を深めることができました。月刊「GALAC」に、開催告知及びセミナー開催後の抄録を掲載。収支については、157,506円の黒字となりました。

セミナーの概要は以下の通り。

放送批評懇談会セミナー2019

タイトル：「#放送 #改革 #ビッグデータ時代
～ラジオ・テレビの処方せんを考える～」

日時：2019年10月21日（水）14：00～16：30

会場：明治記念館 107-0051 東京都港区元赤坂2-2-23
03-3403-1171

プログラム：

14：00～14：40 【講演：放送改革2019の課題と方向性

#ローカル局基盤強化 #同時配信 #上下分離 #ケーブルテレビ #BPO】

衆議院議員 自民党行政改革推進本部事務局長、小林史明氏

聞き手：音 好宏 上智大学教授

14：50～16：30 【ディスカッション：ラジオのリスナーは誰なのか？ #radiko #リスナーファインダー #FM転換 #若年層 #番組制作】



NPO放送批評懇談会

第16回通常総会 2020

パネリスト：三村孝成氏 TBS ラジオ社長

升家誠司氏 CBC ラジオ社長

問題提起：奥 律哉氏 株式会社電通 電通総研フェロー

電通メディアイノベーションラボ 統括責任者

モデレータ：音 好宏 上智大学教授

参加費：一般8,000円、維持会員社5,000円（1名あたり）、

個人会員3,000円 定員80名



2019年度広報事業報告

1. 以下の委員で運営しました。

委員長 滝野俊一

副委員長 茅原良平

委員 飯田みか 石橋さや夏 中平良磨 永田俊和

西川博泰 柳川素子

事務局 中島好登 齋藤茜里

2. 公式ホームページのリニューアルを行いました。スマホやタブレットにも対応し、セキュリティも高めました。また、SNSとの連動も図りました。
3. 公式ホームページのコンテンツの充実に努めました。その1つとして、各クールに広報委員による「ドラマ座談会」を開催し、その記事を「オリジナルコンテンツ」として掲載しました。
4. 「ギャラクシー賞データベース」をリニューアルし、利便性とセキュリティを高めました。
5. ツイッター、インスタグラム、フェイスブックといったSNSを使った広報活動に力を入れ、ギャラクシー賞や「GALAC」、放懇セミナーなど会の事業のパブリシティに努めました。
6. 5月の第56回ギャラクシー賞贈賞式で、受賞結果を写真とともにインスタグラム、フェイスブック、ツイッターで速報しました。また、受賞者などに独自にインタビューを行い、動画を公式ホームページに掲載しました。
7. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の会員を増やすべく、SNSなどを使った広報活動に力を入れました。また、「GALAC」のメイキング画像をGメンバーだけに公開するなど、サービスの充実に努めました。Gメンバーの会員数は160名（6月15日現



在) でした。

8. マイベストTV賞を運営し、第14回マイベストTV賞グランプリをドラマ24「きのう何食べた？」(テレビ東京)に贈りました。

マイベストTV賞は、放送批評懇談会正会員とGメンバーの投票で選出しました。途中経過を毎週、公式ホームページに掲載し、また毎月の投票結果をフェイスブックやインスタグラム、ツイッターに掲載することで関心を高めました。

第三号議案

放送批評懇談会

2019 年度決算報告

収 支 計 算 書

2019年4月1日～2020年3月31日まで（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	3,000,000	2,685,000	315,000
維持会費収入	43,000,000	42,415,000	585,000
Gメン-会費収入	50,000	16,182	33,818
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	31,000,000	32,510,810	△ 1,510,810
企画開催事業収入	800,000	488,600	311,400
周年事業収入		12,000	△ 12,000
3. その他の収入			
出版編集事業収入	5,000,000	5,962,023	△ 962,023
広告料収入	4,500,000	3,722,000	778,000
4. 雑収入			
受取利息	0	2,880	△ 2,880
5. 退職金関連			
保険満期返戻金	20,000,000	0	
退職金引当金戻入	21,449,142	21,449,142	
当期収入合計	128,799,142	109,263,637	19,535,505
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	7,750,000	7,715,939	34,061
式典費	12,500,000	12,573,870	△ 73,870
企画開催費	500,000	363,517	136,483
原稿料	5,700,000	5,805,351	△ 105,351
編集費	4,000,000	3,558,491	441,509
雑誌印刷費	18,400,000	18,803,060	△ 403,060
発送費	2,100,000	2,255,811	△ 155,811
2. 管理費			
給料手当	22,000,000	21,726,923	273,077
人件費	42,449,142	22,886,100	19,563,042
法定福利費	3,300,000	3,748,031	△ 448,031
福利厚生費	170,000	116,769	53,231
旅費交通費	630,000	600,993	29,007
通信費	580,000	553,326	26,674
資料費	50,000	49,015	985
会議費	350,000	349,490	510
水道光熱費	300,000	292,499	7,501
事務用品費	100,000	103,402	△ 3,402
消耗品費	350,000	260,344	89,656
備品費	450,000	342,361	107,639
諸印刷費	300,000	632,340	△ 332,340
広報費	1,800,000	2,568,573	△ 768,573
支払手数料	240,000	221,937	18,063
賃借料	4,100,000	4,093,441	6,559
保険料	730,000	870,060	△ 140,060
交際費	200,000	145,503	54,497
雑費	930,000	899,784	30,216
諸会費	150,000	162,644	△ 12,644
租税公課	70,000	71,000	△ 1,000
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	0
志賀基金繰入			0
当期支出合計	131,199,142	112,770,574	18,428,568
当期収支差額	△ 2,400,000	△ 3,506,937	1,106,937

貸借対照表
2020年3月31日現在(単位:円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	42,395,258		
未収入金	3,102,500		
所有物	286,625		
流動資産合計		45,784,383	
2. 固定資産			
賃借権利金等	165,808		
差入保証金	4,099,500		
特定資産			
志賀基金	62,927,937		
退職給付引当金	6,654,926		
固定資産合計		73,848,171	
資産合計			119,632,554
II. 負債の部			
未払金	7,129,723		
前受金	2,370,000		
預り金	277,365		
退職給付引当金	6,654,926		
負債合計			16,432,014
III. 正味財産の部			
志賀基金	100,000,000		
その他の正味財産	3,200,540		
正味財産合計			103,200,540
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			-3,506,937
負債及び正味財産合計			119,632,554

正味財産増減計算書

2019年4月1日～2020年3月31日まで(単位:円)

科目	金額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
賃借権利金増加額	132,646		
2. 負債減少額			
預り金減少額	216,243		
退職給付引当金減少額	20,449,142		
増加額合計		20,798,031	
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
現金預金減少額	3,269,564		
未収入金減少額	357,200		
特定資産減少額	20,449,142		
1. 負債増加額			
未払金増加額	229,062		
減少額合計		24,304,968	
当期正味財産増加額			-3,506,937
前期繰越正味財産額			106,707,477
期末正味財産額			103,200,540

第四号議案

放送批評懇談会

第 16 期 17 期役員

**放送批評懇談会 第16期17期役員**

- 理事長 音 好宏
- 専務理事 川喜田尚 (総務担当)
- 常務理事 藤田真文 (60周年記念事業担当)
- 出田幸彦 (選奨事業委員長)
- 丹羽美之 (企画事業委員長)
- 理事 鈴木健司 (出版編集委員長)
- 古川柳子 (選奨事業委員会テレビ部門委員長)
- 五井千鶴子 (選奨事業委員会ラジオ部門委員長)
- 服部千恵子 (選奨事業委員会CM部門委員長)
- 茅原良平 (選奨事業委員会報道活動部門委員長)
- 滝野俊一 (広報委員会委員長)
- 市村 元
- 入江たのし
- 奥 律哉
- 国枝智樹
- 汲田亜紀子
- 上滝徹也
- 小林 毅
- 桜井聖子
- 鈴木嘉一
- 長井展光
- 桧山珠美
- 水島宏明
- 山田健太
- 中島好登 (事務局長)
- 監事 隈部紀生
- 福島俊彦

第五号議案

放送批評懇談会

2020 年度事業計画



2020年度総務事業計画

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支援します。
2. 正会員の加入促進
正会員の加入促進に努め、より多彩な活動を支えます。
3. 維持会員の加入促進
維持会員の増員によって会の財政基盤を強めることを目指します。
4. ホームページ、ギャラクシー賞データベースの維持管理
広報委員会と連携し、公式ホームページを維持管理し、充実を図ります。
ギャラクシー賞データベースの管理運営に当たります。
5. Gメンバー、Gメンバーサイトの管理
広報委員会と連携し、「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」の管理に当たり、運営を支援します。Gメンバーサイトの維持管理に当たります。
6. 「GALAC」広告
出版編集委員会と連携し、「GALAC」広告の営業に努力するほか、スペースの有効活用について研究します。
7. ギャラクシー賞
第57回は新型コロナウイルスの影響により通常年とは異なる形での発表を行います。2020年6月1日入賞作品発表（ネット）、7月2日大賞・優秀賞発表（ネット動画）、8月3日無観客贈賞式の開催を予定します。
第58回ギャラクシー賞の選考活動を支え、運営に協力します。



8. 志賀信夫賞
第12回の選考、表彰を行います。
9. 第20回「日韓中テレビ制作者フォーラム・日本大会」
2020年度中に開催予定される第20回大会に協力し、成功に寄与します。
10. 事務局の労働環境、管理・業務を整備し、次世代につながる事務局体制を模索します。
11. 2023年に控える放送批評懇談会60周年のための準備活動を開始します。



2020年度出版編集事業計画

1. 本年度は下記のメンバーで運営します。

委員長 鈴木健司

副委員長 国枝智樹 渡邊 悟

委員 岩根彰子 新川周平 鈴木 昭 高堀冬彦

西川博泰 三谷実可 宮崎美紀子

編集スタッフ 中島好登 福島美子 齋藤茜里 桧山珠美

2. 毎月6日に「GALAC」を発行します。本年度の運営方針は以下のとおりです。

- 1) 世帯視聴率から個人視聴率への移行、ネットメディアのさらなる台頭によって、放送の構造が大きな転機を迎えているなかで、新型コロナウイルス禍による社会全体のパラダイムシフトも加わり、メディアそのものの役割もまた変化を余儀なくされています。「GALAC」は月刊放送専門誌としてのスタンスを新たにして、放送にかかわるあらゆる問題をテーマ領域としつつ、放送の持つ社会的な役割とその文化の向上に資するような批評、情報記事を提供していくことを目的とします。
- 2) 基本編集方針は、特集・連載・各選奨委員会による作品批評の3本柱で構成し、放送にかかわるプロフェッショナル、放送界をめざす学生、そして意識の高い視聴者が「面白く」「役に立つ」と感じるような記事を掲載するように努めます。
- 3) NPO法人の発行する雑誌として、どの団体、組織にも付度しないジャーナリズム精神、自由闊達な批評精神を堅持し、あらゆるテーマにチャレンジする編集姿勢を貫きます。また、放送専門誌として、放送にかかわるさまざまな事象を歴史として「記録」していく役割も果たしていきます。



- 4) 特集ページは毎月タイムリーなテーマを選定するとともに、テレビやラジオのみならず、ネットメディアや衛星・ケーブルメディア、ローカル局や制作会社など、さまざまな領域に目配せしながら、バランスよく編成していくことを目指します。
- 5) ポータルサイトへの「GALAC」記事の発信などによって、放送批評誌としての知名度と影響力をさらに高めていきます。
- 6) 選奨事業委員会や企画事業委員会と連携し、放送をめぐるさまざまな活動に多面的に寄与していきます。また、広報委員会と連携し「GALAC」の存在感を高めるため、広報に努めます。
- 7) 「GALAC」広告の営業に努力するとともに、有効活用を研究します。



2020年度選奨表彰事業計画

1. 2020年度は下記の委員構成で運営します。

選奨事業委員長 出田幸彦

<テレビ部門委員会>

委員長 古川柳子

副委員長 桒山珠美

委員 梅田恵子 永麻理 太田省一 岡室美奈子

桶田敦 加藤久仁 兼高聖雄 戸田桂太

戸部田誠 藤田真文 細井尚子

<ラジオ部門委員会>

委員長 五井千鶴子

副委員長 桜井聖子

委員 鵜飼一嘉 川喜田尚 北郷裕美 永須智之

松浦正和 松崎泰弘 三原治 迎康子

本村隆 山田真嗣

<CM部門委員会>

委員長 服部千恵子

副委員長 汲田亜紀子

委員 家田利一 泉貴文 今宿裕昭 風間恵美子

川野康之 木下一郎 島崎英雄 中島和哉

村田玲子 山口菜穂美 山下治城

<報道活動部門委員会>

委員長 茅原良平

副委員長 長井展光

委員 小泉世津子 境真理子 関美礼 西畠泰三

中村正敏 原真 樋口喜昭 松山秀明

※若干名交渉中

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里

2. 第58回ギャラクシー賞(2020年度)の審査、ならびに贈賞式を行います。



3. 2020年度の運営方針は以下のとおりです。

今年度はギャラクシー賞創設から58年目を迎えます。ネットによる動画配信サービスが急速に拡大するなど、テレビ、ラジオを取り巻くメディア環境は大きく変化しています。加えて未曾有のコロナ禍は放送のあり方や制作現場の形態にも大きな影響を及ぼしています。

そうしたなかで、昨年度の応募作品数は4部門合わせると前年にくらべ70本あまり増加しました。全作品数の10%増となります。出版編集事業、企画開催事業、広報事業などの活動と相まって、ギャラクシー賞の認知度や評価は着実に向上しています。

今年度の選奨にあたっては、ひきつづき各部門委員会とも真摯で活発な討議を重ね、より厳正で慎重な審査と的確で質の高い選評に心がけます。そのことにより新鮮で多様な作品を発掘し、制作者たちの情熱ある番組づくりを応援していきます。あわせて応募数の増加にひきつづき努力します。

また、これまでの「受賞作品を視聴する会」や「制作者と語り合う会」などについては、コロナ禍の状況を見据えつつ随時開催することとし、ギャラクシー賞のPR活動の強化や制作者と視聴者とのコミュニケーション活動を積極的に進めていきます。

1) テレビ部門委員会の運営

メディア環境の大きな変化に加え、コロナ禍の中で進行するネット依存的生活スタイルは、今後のテレビに少なからぬ影響を及ぼしてくるだろうと考えられます。「デジタル環境の中でのテレビ」(テレビ自体もデジタルメディアではありますが)の在り方についての議論・実践・評価がいよいよ切実に求められています。このような環境の中でスタートする2020年度テレビ部門委員会は、20世紀後半に培われてきた「テレビ力」の根幹を守り、その力が21世紀にも新たな可能性を育てられるよう、以下のような活動を真摯に行うことを通じて貢献していきます。



① 定例月評会の開催

毎月1回評会を開催。各委員がそれぞれ推薦する番組を持ち寄り、活発な意見交換の後「月間賞」を選定します。テレビの総合力を担保するのはコンテンツの多様性です。各ジャンル（報道・ドキュメンタリー・ドラマ・バラエティ）が、公平かつバランスよく評価されるよう、その番組表現や社会的意味などを深く議論していきます。

② ギャラクシー賞の選定

毎月選定される「月間賞」に加え、年2回、各放送局、プロダクション等からエントリーされる応募番組の選考を行います。上期・下期それぞれ「入賞作品」「奨励賞」を選んだ上で、年間通しての「大賞」「優秀賞」「選奨」「特別賞」「個人賞」「フロンティア賞」を決定します。地域局、ケーブルテレビ局、衛星放送など、平素全国的に評価されにくい作品と接点を持てる機会でもあり、地域ならではの視点や意義も積極的に評価します。コロナ禍で制作現場がダメージを受けている可能性が考えられる中、出来る限りギャラクシー賞への応募に意欲を持ってもらえる選奨を心がけていきます。

③ フロンティア賞の活用

現在、テレビ・メディアのフィールドは放送波のみならず、通信媒体でのコンテンツ配信、他媒体（ラジオ・ネット・空間イベント etc）とのクロスメディア展開などに広がっています。「テレビカ」の新境地開拓や挑戦的な試みを擲い上げ、フロンティア賞のさらなる充実につとめます。

④ 制作者とのコミュニケーション

「テレビカ」の根源は「人」です。「GALAC」誌上での各委員のコメントが、決して安泰とはいえない環境で番組制作に熱意を持つ制作者たちへのエールや、次に繋がる叱咤になるよう、心を込めた論評を心がけていきます。受賞番組の上映や、それをめぐって対話ができる場づくりにも努力したいと思います。

2) ラジオ部門委員会の運営

任期満了などで半数の委員に変更がありました。新しい委員を迎えて、ラジオ委員会の結束力を強めます。コロナ禍における



在宅勤務・学校休業などでラジオが注目を浴びています。より一層のラジオメディア強化につなげるべく委員全員で情報を共有し、ラジオの魅力を発信していきます。

① 定例合評会

毎月1回の定例合評会を開催します。今まで同様、全国のAM局、FM局、コミュニティ局の全番組を対象に聴取番組を選び、評価をします。合評会の議論の内容は「GALAC」誌にて公開します。試聴する番組は毎月テーマを設定します。

(過去1年で取り上げた例：なりきりラジオ・朝刊ラジオ・地元で聴かれている番組・局アナによるトーク番組・ローカル局の若者向け番組・10代向け番組東北版・大ベテランによる洋楽番組・3.11特番・吹奏楽番組・朗読番組)

番組の長所、あるいは改善点などを幅広く議論して番組の更なる充実を促し、魅力ある番組の発掘に努めます。

② ギャラクシー賞の選考

昨年度の応募本数は88本でした。局別の応募はAM局が61本、FM局20本、コミュニティ局7本でした。カテゴリー別では生ワイド22本、音楽&エンタテインメント31本、ドラマ11本、報道・ドキュメンタリー24本でした。

昨年度より応募は9本増となりましたが、FM局・コミュニティ局からは増加できる余地がありそうです。さらなる応募の増加が果たせるよう努力します。第57回ギャラクシー賞ラジオ部門の入賞作品は大変高いレベルでした。優れた番組や出演者を発掘し、ラジオの魅力と話題を発信します。DJパーソナリティ賞の候補者選びを、毎月の合評会で聴取した番組などにも広げて議論をします。

③ 「GALAC」誌での活動

「ラジオ委員会としてどのような情報を発信するか」が最大かつ永遠のテーマです。

現在の「合評会報告」をさらに充実させます。「生ワイド番組紹介」では全国の放送局を12のブロックにわけ、地方ならではのユニークなワイド番組やDJパーソナリティを発掘します。2018年6月号からスタートした「ラジオデイズ」は委員各自の視点からラジオへの提言、問題提起、ホットニュースなどを取り



上げていきます。

④ 「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会」の開催

昨年度で26回を数えました。しかし、コロナ禍での現状では開催の目途は立っていません。毎年多くのリスナーが一同に集まって入賞作品を聴き、入賞作品の制作者が熱き想いを語る…。このような有意義な場が再開できることを、切に祈っています。

3) CM部門委員会の運営

第57回ギャラクシー賞の応募数は、テレビCMが204本、ラジオCMが123本の総計327本。前年に比べて45本の増加となりました。上期は46本の増、下期は1本の減でした。増加の要因は、令和への改元、東京2020の前年、ラグビーW杯、消費増税など、経済が動くきっかけが多かったためと考えられます。しかし2020年に入り、新型コロナウイルスが経済に大きな負の影響を与えており、CMの制作についても今後大きな変化が考えられます。状況を見つめつつ、一層の適正な審査に注力していきます。またコロナ禍で進化の進んだウェブCMの役割の検討など、メディアの拡大も中期的視野に入れてまいります。

CM委員会では以下の活動を通じ委員会運営を強化いたします。

① 選考会では、テレビ・ラジオCMの役割とギャラクシー賞の魅力を確認しつつ、クリエイティブ力のある作品、企画力のある作品、感銘をあたえる作品、時代をリードする作品を発掘していきます。

② 月1回の定例会は、委員各々が3本ずつリストアップしたCMを、多角的な視点から検討し、活発に批評活動を磨いてまいります。

③ 毎月の定例会のピックアップデータを「GALAC」誌面に反映できるようにしていきます。従来は毎月推奨される約30作品中、5～6作品の紹介だった誌面を、現在TOPICSとして3作品、Monitor Roomに4作品、A la Carteに10作品を掲載していくように変更。一層の充実を図ってまいります。



- ④ 好評CMとして「GALAC」に載ったものをその制作者や広告主に送り、ギャラクシー賞応募への促進をはかるとともに、会員社への支援としていきます。また、ギャラクシー賞応募増につながるよう、クライアント、広告代理店、広告専門誌等へのPRに努めます。
- ⑤ ここ5年、ギャラクシー賞CM部門の認知を少しでも上げるべく、「ギャラクシー賞CM入賞作品を見る・聴く会」を、大賞受賞関係者をゲストに迎えて行ってきましたが、今年度は新型コロナウイルスの動向を見つつ、開催の可否を検討します。
- ⑥ ラジオCM部門の応募について。現状ではテレビCMの約2分の1の応募本数となっています。審査方法、賞の本数の検討など精度を上げていきたいと考えます。

4) 報道活動部門委員会の運営

- ① 報道活動部門は、放送批評懇談会の創立40周年を記念して2002年に創設されました。従来の賞やコンクールは、個々の「番組」の完成度や作品性を中心に評価を行います。それに対して報道活動部門では、個々の「番組」の枠組みでは必ずしも捉えきれない一連の「報道活動」全体を評価するところに最大の特徴があります。番組内の特集やシリーズ企画、長期間に及ぶ調査報道、局を挙げてのキャンペーン、ウェブや他メディアと連動した新しい展開など、多種多様な報道活動を対象にし、放送ジャーナリズムの活性化に寄与することを目的としています。
- ② 報道活動部門は応募制を採っています。年2回(上期・下期)各社・各局からエントリーを受け付け選考を行います。最終的に大賞1本、優秀賞2本、選奨3本を選びます。上記の選考の過程・結果は贈賞式及び「GALAC」誌上で発表します。
- ③ そして、日頃から各委員がテレビ・ラジオ各局、およびケーブルテレビ局の報道活動やキャンペーンなどの長期活動に注目し、リサーチした情報を交換する会を年2回程度開きます。その他に、委員の輪番による「GALAC」へのコラムの掲載(「報道活動部門トピックス」)、「見る会、語る会」の開催などを通して優れた報道活動を積極的に発掘、紹介し、多方面からの応募を促すことに努めます。



2020年度企画開催事業計画

1. 本年度の企画事業委員会は、以下の委員で構成します。

委員長 丹羽美之

副委員長 奥 律哉 水島宏明

委員 氏家夏彦 長井展光 新美妙子 本橋春紀

柳川素子 渡邊 悟

2. 放送の今日的課題をめぐるシンポジウム、セミナー・研究会などを企画・立案・実施します。

3. 本年度の運営方針は以下の通りです。

- (1) 幅広く、タイムリーにテーマを設定します。

「放送をめぐる規制改革」「通信と放送の融合」「ローカル局の経営」「新しい視聴率調査」「コロナ禍と放送」など、放送を取り巻く環境は大きく変化しています。放送ジャーナリズム、放送文化、経営問題などを幅広く視野にいれ、放送メディアが直面する様々な課題についてタイムリーに議論し、発信するように努めます。

- (2) 新たな開催方法を検討します。

これまで企画事業委員会では、ワンポイントのテーマで中規模のセミナーを年間1～2回開催してきました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従来のような対面形式のシンポジウムやセミナーを開催できない恐れもあります。その場合はオンライン形式の開催とするなど、実施規模・開催時期も含めて、新たな開催方法を検討します。

- (3) 他の委員会との連携を一層強化します。

選奨事業委員会（テレビ、ラジオ、CM、報道活動の各部門）や編集委員会（月刊「GALAC」）と積極的に連携し、相乗効果で発信力の強化を目指します。



2020年度広報委員会事業計画

1. 以下の委員で運営します。
委員長 滝野俊一
委員 飯田みか 石橋さや夏 小林英美 西川博泰
西森路代 柳川素子 ※若干名を追加予定
事務局 中島好登 齋藤茜里
2. SNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラム）や公式ホームページを使った広報活動に、さらに力を入れます。
3. 「オリジナルコンテンツ」の拡充など、公式ホームページのコンテンツのさらなる充実を図ります。
4. YouTube に公式チャンネルを開設。オリジナル動画を広く公開し、会やギャラクシー賞の知名度の向上を図ります。
5. 外部ポータルサイトと連携した広報活動も積極的に行います。
6. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の運営を行います。独自イベントやプレゼント企画の開催など、準会員制度の盛り上げとサービスの充実に努めます。
7. Gメンバーの新規会員獲得のために、学生向けの「特別入会制度」など各種キャンペーンを実施します。
8. マイベストTV賞の月間ノミネート番組の投票を毎月実施します。そして、「第15回マイベストTV賞グランプリ」を決定し、第58回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。
9. 親睦団体や大学関係者に働きかけるなどして、正会員およびGメンバーを獲得すべく草の根的な活動を行います。

第六号議案

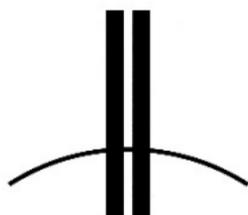
放送批評懇談会

2020 年度収支予算

2020年度予算
2020年4月1日～2021年3月31日まで（単位：円）

科目	2019予算額	2019決算額	2020予算額	備考
I. 収入の部				
1. 会費等収入				
会費収入	3,000,000	2,685,000	3,000,000	正会員会費
維持会費収入	43,000,000	42,415,000	43,000,000	維持会員会費
Gメンバー会費収入	50,000	16,182	50,000	Gメンバー 会費
2. 事業収入				
選奨表彰事業収入	31,000,000	32,510,810	28,000,000	参加料, 贈賞式収入, レプリカ販売
企画開催事業収入	800,000	488,600	800,000	シンポジウム参加料
周年事業収入		12,000		
3. その他の収入				
出版編集事業収入	5,000,000	5,962,023	5,500,000	GALAC販売
広告料収入	4,500,000	3,722,000	4,000,000	GALAC広告
4. 雑収入				
受取利息	0	2,880	0	
5. 退職金関連				
満期保険金	20,000,000	0	20,000,000	
退職金引当金戻入	21,449,142	21,449,142	0	
当期収入合計	128,799,142	109,263,637	104,350,000	退職金をのぞいた額 84,350,000
II. 支出の部				
1. 事業費				
選奨費	7,750,000	7,715,939	7,750,000	委員会, 見る聞く会, レプリカ, システム
式典費	12,500,000	12,573,870	10,500,000	ギャラクシー賞贈賞式開催費
企画開催費	500,000	363,517	500,000	委員会運営, セミナー実施経費
原稿料	5,700,000	5,805,351	5,700,000	GALAC原稿料
編集費	4,000,000	3,558,491	4,000,000	委員会運営, GALAC編集費
雑誌印刷費	18,400,000	18,803,060	18,500,000	GALAC印刷費
発送費	2,100,000	2,255,811	2,200,000	GALAC発送費
2. 管理費				
給料手当	22,000,000	21,726,923	19,800,000	職員給与
人件費	42,449,142	22,886,100	22,000,000	退職金, 臨時・契約職員
法定福利費	3,300,000	3,748,031	2,950,000	社会保険など
福利厚生費	170,000	116,769	120,000	残業飲食, 職員福利厚生
旅費交通費	630,000	600,993	500,000	通勤費・交通費, 役員交通費
通信費	580,000	553,326	550,000	郵便, 宅配便, 電話, ネット
資料費	50,000	49,015	50,000	新聞, 雑誌, 書籍
会議費	350,000	349,490	150,000	総会, 理事会などの会議費用
水道光熱費	300,000	292,499	300,000	水道代, 電気代
事務用品費	100,000	103,402	100,000	事務用品, PCソフト
消耗品費	350,000	260,344	300,000	コピー機使用料, 日用品
備品費	450,000	342,361	200,000	映像音響機器, PC関連機器
諸印刷費	300,000	632,340	500,000	封筒, 名刺など
広報費	1,800,000	2,568,573	1,200,000	委員会, HPなど維持, 日韓中
支払手数料	240,000	221,937	240,000	振込手数料, 更新手数料
賃借料	4,100,000	4,093,441	4,100,000	事務所賃借, コピー機レンタル
保険料	730,000	870,060	700,000	保険(退職金補填), 火災保険
交際費	200,000	145,503	150,000	冠婚葬祭
雑費	930,000	899,784	900,000	税理士, 社労士, NHK, WOWOW, JCOM
諸会費	150,000	162,644	150,000	友好団体会費
租税公課	70,000	71,000	70,000	法人都民税, 収入印紙
消費税			240,600	2017年度を対象に課税
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	毎年100万円の積み立て
志賀基金繰入				
当期支出合計	131,199,142	112,770,574	105,420,600	退職金をのぞいた額 85,420,600
当期収支差額	△ 2,400,000	△ 3,506,937	△ 1,070,600	

※2020年度の収支差金1,070,600円については、当会資産の一部をもって補填します。



NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <https://houkon.jp/>